

教育研究誌にみる被服デザイン関連記事

Articles on Clothing Design in Educational Research Journals

鈴木 桜子

SUZUKI, Sakurako

1. 資料調査の目的

本資料調査は、高等教育における被服・ファッション領域において、デザイン分野にどのような関心が向けられてきたのか、またデザイン教育の面からどのような課題があげられてきたかを教育研究誌から関連記事タイトルをまとめ、探ろうとするものである。その目的の背景には、現在、服飾系の大学、または服飾系の学科を設置する高等教育機関におけるデザイン教育の問題がある。これまで衣生活を豊かなものにしていくための衣服研究を目的としてきた教育課程の中に、創造的な衣服に向けられたデザイン教育の位置づけが依然として課題に残されている現状がある。ファッション領域におけるデザインの理論教育と実践教育はどのように形成され連関されていくものなのだろうか。教育関係者、実務関係者らによって繰り返し問題提起されてきた経緯を教育研究誌で追うことによって、日本の被服・ファッション教育におけるデザイン教育の課題を明らかにしていく一助としたい。

2. 対象資料

今回の資料調査では被服分野に関わる教育研究誌「家事及裁縫」(1927年創刊、後に「家政教育」「家庭科教育」に改題)、「被服文化」(1949年創刊、後に「家事裁縫」「服装文化」に改題)、「衣生活」(1958年創刊)、「衣生活研究」(1974年創刊)を対象とした。これらは当時の裁縫・被服教育界において学会誌とは別に被服分野での主要な研究誌であった。それぞれ刊行年、趣旨も異なるものではあるが、教育現場に携わる者や業界関係者といった専門的見地を持つ者による編集・発行であること、その読者もそれと同様である

といった点で共通しており、また被服・ファッションでの人文・自然科学分野のいずれにも偏らずに幅広い領域に跨った編集内容であることから適当とした。従って、学会誌といった特定の分野に特化する傾向のある学術研究誌は今回対象としていない。以下に対象資料の概要をあげる。

「家事及裁縫」 1927（昭和2）年創刊 東京家事講習所

昭和という新しい時代を迎え、旧学制の下、女子に必修とされた「家事」「裁縫」に関わる理論と実践を紹介し、女子教育の発展と学問の進歩に向けられた研究誌として創刊された。その後、女子教育をめぐる社会環境や学制の変化に伴い、1942（昭和17）年より「家事裁縫」、1944（昭和19）年より「家政教育」、1948（昭和23）年より「家庭科教育」に改題。後続誌は2005（平成17）年に終刊。

「被服文化」 1949（昭和24）年創刊 被服文化協会

戦後の乏しい衣生活を強いられた時代に今和次郎を中心とした被服文化協会が設立され、その機関誌として創刊された。1972（昭和47）年より「服装文化」に改題し、ものとしての「被服」を人間が装う状態を示す「服装」にまで概念を広め、幅広い服装研究の場として多くの識者が論壇に上がった。後続誌は1983（昭和58）年に終刊。

「衣生活」 1958（昭和33）年 衣生活研究会

1948年に新制女子大学が誕生し、家政学部には被服領域が置かれてから10年が経ち、大学・高校の被服教育の充実をはかるための副読本として刊行された。読者層は大学・高校教師はもとより、学生にも購読さ

れ、毎号生地見本が付録としてあり、新素材の紹介がされた。1996（平成8）年に終刊。

「衣生活研究」 1974（昭和49）年 関西衣生活研究会
先の「衣生活」を発行していた衣生活研究会の関西事務所が独立し、関西衣生活研究会として発足、新たに「衣生活研究」を刊行したことにはじまる。「衣生活」の趣旨を見直し、新しい時代に向けて一層の拡充を図った。刊行当初は全国の大学教育・研究者による投稿としていたが、次第に関西地区の大学教員・研究者を中心とする投稿に偏っていった。1993（平成5）年終刊。

以上4誌を取り上げていく上で対象とした時代は、上記の研究誌刊行初年の1927年から学校教育法改正による1991年の大学設置基準の大綱化⁽¹⁾までとした。この時代の設定は、1947年の学校教育法公布により翌年からの新制女子大学の創設を境に、前後にある程度の経年期間を置いたものである。これはそれまでの裁縫教育から被服教育へ、更に現代に至ってファッション教育へと進展していくことになる時代の流れとして見るができる。

3. 調査方法

前節で述べた対象資料の目次と内容を追ってデザインに関連する寄稿記事をピックアップし、目録としてまとめると同時に年毎の統計をとった。その際、何をピックアップしていくか「デザイン」に関連する記事内容の捉え方が問題となるが、デザインという言葉自体が幅広い意味と領域を含むため、今回の調査では理論・形態・色彩・素材・技術・造形美・歴史・教育・その他、として内容を捉え、統計を取る際にも同様の内容区分とした。これらは衣服を創造していく上での造形思考をもった最終的な衣服形態へのプロセスに繋がる内容を前提とし、縫製技術のみを扱うもの、素材を科学的に分析したもの、純粹に歴史的事象を追った論考等、直接的な造形思考を伴わないようなものについては含んでいない。⁽²⁾ またこれらの内容区分のうち、「理論」として記事内容を捉える際、色彩論や形態論が扱われるものも多数あり、内容区分が複数あてはまるため、その場合には「色彩・理論」「形態・理論」のように複合的に捉えた。「その他」については前記内容区分に当てはまらないものとし、具体的な例として、ファッション論、デザイナー列伝、記号論等をここに分類した。因みに本調査では和服や服飾小物等に関する内容は含んでいない。

4. 教育研究誌にみるデザイン関連の記事

以上より調査の結果、計374編に及ぶ記事が確認できた。表1は記事タイトルを全て列挙したものになっている。表2は表1から年ごとに内容区分にわけて記事件数を集計したものである。図1は内容区分毎に色分けした表2からの積み上げグラフである。折れ線グラフはデザイン関連記事の実際の件数を示すものであり、1件の記事につき内容区分が複数に亘る場合もある積み上げグラフとは必ずしも一致するものではない。図2については、今回調査対象とした教育研究誌の刊行期間を示したものである。

5. 図表から見えてくること

表1、図1から教育研究誌にみる被服デザイン関連記事について気付く点を挙げておく。

①教育研究誌にみるデザイン関連の記事数をそのままデザインへの関心を示す値と捉えるならば、戦局の最中にあっては殆どデザインに対する関心が表れておらず⁽³⁾、新制女子大学が創設されていく1948年以降徐々に記事件数の値が増し、1949年、1955年で数値が低くなるものの1956、1957年で15件を超える高い数値となる。その後増減を繰り返しながらもデザインに関する記事が取り上げられていく。そして再び1974～1976年で高い数値となり、1983年には、その年の前後と比較して再び突出した数値となっている。

②1927～1936年にかけては対象資料が「家事及裁縫」の1誌であるものの、デザインに関連する内容を扱う記事が戦後の2～4誌によるグラフ数値と比べれば明らかに高い関心が持たれていたことが窺える。第1巻3号（1927）に掲載された木田翠明の「裁縫教育の現状と其将来に就いて」では、型に当てはめられた技術教育から洋服の自由なデザインとアイデアによって製作者自身で表現していくための教育の在り方が問われている。ここで興味深いのは、当時「意匠」という言葉の表記が一般にある中で「デザイン」という言葉が用いられている点である。ここでは詳細に触れないが「デザイン」という外来語を他のデザイン領域の中でも積極的に使い始めた⁽⁴⁾のがファッション領域であり、またデザインの言葉の定義もあいまいなままに使われてきた経緯もある。この点で被服・ファッション教育におけるデザイン教育に少なからずの影響を及ぼしている可能性があることも指摘しておきたい。

③1947年以降、50年代初期にかけての「理論」が占める割合の推移は、新制女子大学の相次ぐ創設時期と重なる。この時期には、牛込ちゑ、宮下孝雄、中田満雄らによって各誌でデザイン理論に関する連載があり、それらを前後して彼らによる教育図書の刊行も相次いでいる⁽⁵⁾。被服教育が裁縫教育からの流れの延長上にあり、技術教育が中心に行われてきた経緯からも被服を学として位置づけていく中で、これまでになかった被服のデザイン理論が打ち立てられていった。その後も、教育研究雑誌への寄稿、教育図書の刊行には彼らの名前が繰り返し登場することから、被服領域にかかわるデザイン理論、更にデザイン教育において重要な立場にあったことが見えてくる。

誌上に掲載されたこれらのデザイン理論の内容は、デザインとは何か、という定義から始まり、点・線・面、平面・立体での構成原理から色彩原理に至るまでのいわゆるデザイン一般での理論としてであった。

④最後に挙げておきたいのが、これまでも被服教育が抱えてきたデザイン教育の問題が、誌上で議論や論議となって表れていたことである。表1より具体的な記事タイトルをあげると1927年の本間良介による「創造主義裁縫教授法の主張」、それに対する山本キクによる「創造主義裁縫教授批判」の寄稿はその後「家事及裁縫」誌上で2年間に及ぶ議論となった。その内容は、本間が型にあてはめられた一律の一斉教授ではなく創造性を重視する教授法への見直しを主張するのに対して、山本が裁縫教授の実際に伴わない芸術論にすぎないと批判するものであった。これは本間が武蔵高等学校の図画教育の教授であり、山本が東京女子美術学校で裁縫教育の教授、東京市視学官であった立場の相違からの議論でもあった。

1956年の石山彰による「服装デザイン教育の再検討」（『服装文化』41巻45号）では、戦後新制女子大学が発足してから10年近く経ち、これまでの被服教育、デザイン教育が反省期に立たされていることを自問する内容となっている。それは意匠学・色彩学・造形美学等の課目が被服教育に置かれるようになったものの、技術教育共に連関性なく「服装とは何か」を問わずに勘やセンスに頼る現状から教育現場の体制を問いただそうとするものであった。

その後も教育に内容区分される記事タイトル・内容を見ていくと、海外のデザイン教育の紹介、デザインの実践教育、被服教育との関係でデザイン教育を捉える内容が散見される。時代共に変化する社会の状況にデザインがどのように繋がっていくのか、教育はどうあるべきかを再考するものとして重要な資料となる。

以上、「家事及裁縫」「被服文化」「衣生活」「衣生活研究」と教育研究誌でのデザイン関連記事をまとめたが、今回名前があげられた寄稿者による他の文献資料にも被服教育・デザイン教育に関する多くの問題提起があげられてきていることがこれまでの筆者の調査でも確認されている。他稿に改めて具体的な調査研究を進めていく。

謝辞

本研究の調査にあたり、村上万里氏からは貴重な資料の提供を賜り、また資料整理については栗田哲希氏のご協力をいただきました。ここに深謝申し上げます。

（付記）本稿は科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）令和3年度基盤研究（C）課題番号19K12687研究代表者：鈴木桜子「大学ファッション教育におけるデザイン教育に関する歴史的研究—今日的課題に向けて」の研究成果の一部である。

註

⁽¹⁾ 当時の文部省は、高等教育の個性化・多様化・高度化を政策的に進めるために、「ユニバーシティ・カウンスル」の設置とともに、大学設置基準の大綱化など自らの理念や個性を生かした各大学の創意工夫が可能となるように制度の弾力化を図った。文部科学省ホームページより <http://www.mext.go.jp> 2021年8月18日閲覧

⁽²⁾ 今回の資料調査では、縫製技術、科学的な素材分析、純粋に歴史的事象を追った論考等を取りあげていないが、これらも衣服の創造的造形思考に間接的に繋がるものとしては非常に重要な領域であることを付記しておく。

⁽³⁾ ただし、この時期は婦人標準服の普及に向けられた時代であり、雑誌「衣服研究」（発行：大日本国民協会、1941年創刊）、「被服」（発行：被服協会、1930創刊）では、専らその情報が掲載され、いわゆる公募形式のデザインコンペが盛んに行われていた様子が伝えられている。

⁽⁴⁾ 筆者の管見によれば、婦人雑誌「婦人之友」1923年7月号に記事タイトル、落合うの「手藝だより 涼しさうな子供服のデザイン」（p126）に確認できる。本誌ではその後も他の雑誌と比べて頻出度が高い。

⁽⁵⁾ この時期、牛込ちゑは東京家政大学（のちに昭和

女子大学)、宮下孝雄は東京家政大学、中田満雄は文化女子大学で教鞭をとっていた。主な教育図書は以下である。牛込ち糸『婦人服子供服精義：デザインニング』国民図書刊行会、1949、宮下孝雄『意

匠学』光生館、同『被服デザインの原理と応用』光生館、1951、同『被服デザインの基礎』光生館、1953、中田満雄『服装デザインの基礎』デザインセンター、1957他

表1 被服デザイン関連記事

刊行年	記事タイトル	著者	誌名	巻・号	区分
1927	裁縫教育の現状と其将来に就て	木田翠明	家事及裁縫	1 (3)	教育
1927	創造主義裁縫教授法的主張	本間良助	家事及裁縫	1 (4)	教育
1927	創造主義裁縫教授法的主張 (二)	本間良助	家事及裁縫	1 (5)	教育
1927	洋裁教育上の諸問題	木田翠明	家事及裁縫	1 (9)	教育
1928	洋裁教育上の諸問題	木田翠明	家事及裁縫	2 (1)	教育
1928	洋裁教育上の諸問題	木田翠明	家事及裁縫	2 (3)	教育
1929	洋裁教育上の問題 (四)	木田翠明	家事及裁縫	2 (4)	教育
1929	裁縫教育者として衣服史研究の必要と其方法	菅原教造	家事及裁縫	3 (1)	歴史
1929	衣服装飾の問題	菅原教造	家事及裁縫	3 (4)	形態
1929	創造主義裁縫教授講習及研究発表會		家事及裁縫	3 (5)	教育
1929	一齊教授より創造教授への裁縫	本間良助	家事及裁縫	3 (5)	教育
1929	服装家研究餘録	木田翠明	家事及裁縫	3 (5)	その他
1929	服装研究餘録	木田翠明	家事及裁縫	3 (6)	その他
1929	創造主義の裁縫講習－お茶の水における講演の概要－	本間良介	家事及裁縫	3 (7)	教育
1929	創造主義裁縫教授批判	山本キク	家事及裁縫	3 (9)	教育
1929	創造主義の裁縫教授批判 (二)	山本キク	家事及裁縫	3 (10)	教育
1929	女兒服の装飾に就いて	木田翠明	家事及裁縫	3 (11)	形態
1929	山本女史の「創造主義の裁縫教授批判」を読む	本間良助	家事及裁縫	3 (11)	教育
1929	山本キク女史の批判を難ず	本間良助	家事及裁縫	3 (12)	教育
1930	裁縫界に於ける教育上の大論戦	松尾マキヲ	家事及裁縫	4 (1)	教育
1930	裁縫界に於ける教育上の大論戦 (完)	松尾マキヲ	家事及裁縫	4 (2)	教育
1930	洋服と装飾との考察	本間良助	家事及裁縫	4 (2)	形態
1931	藝術的に観た皺の研究	西島芳太郎	家事及裁縫	5 (1)	形態
1931	牛込先生のデザインニングと裁縫教育 (本誌主催夏季講習会所感)	大阪 隈部とし子	家事及裁縫	5 (9)	形態・技術
1932	衣服のデザインニングの学習	岡本すみ	家事及裁縫	6 (1)	教育
1932	洋服の型の史的研究	和田哉子	家事及裁縫	6 (1)	歴史
1932	洋服の型の史的考察 (下)	和田哉子	家事及裁縫	6 (2)	その他
1932	衣服のデザインニングの学習 (二)	岡本すみ	家事及裁縫	6 (2)	教育
1932	洋服の型の史的研究	和田哉子	家事及裁縫	6 (2)	歴史
1932	衣服のデザインニングの学習 (三)	岡本すみ	家事及裁縫	6 (3)	教育
1932	衣服のデザインニングの学習 (四)	岡本すみ	家事及裁縫	6 (4)	教育
1932	衣服のデザインニングの学習 (五)	岡本すみ	家事及裁縫	6 (5)	教育
1932	色彩と調和	關寛之	家事及裁縫	6 (5)	色彩
1932	容貌に調和するデザイン	飯島榮次	家事及裁縫	6 (6)	形態
1932	衣服のデザインニングの学習 (六)	岡本すみ	家事及裁縫	6 (6)	教育
1932	衣服のデザインニングの学習 (七)	岡本すみ	家事及裁縫	6 (7)	理論
1932	衣服のデザインニングの学習 (八)	岡本すみ	家事及裁縫	6 (8)	理論
1932	穴戸みや教授の洋服考案の要件と其指導法を聴く (一)	原みやこ	家事及裁縫	6 (9)	教育
1932	穴戸みや教授の洋服考案の要件と其指導法を聴く	原みやこ	家事及裁縫	6 (10)	教育
1932	衣服のデザインニングの学習	岡本すみ	家事及裁縫	6 (10)	教育
1932	穴戸みや教授の洋服考案の要件と其指導法を聴く (三)	原みやこ	家事及裁縫	6 (11)	教育
1932	衣服のデザインニングの学習 (十)	岡本すみ	家事及裁縫	6 (11)	理論
1933	洋裁講座 衣服のデザインニングの学習 (十一)	岡本すみ	家事及裁縫	7 (1)	教育
1933	洋裁講座 衣服のデザインニングの学習 (一二)	岡本すみ	家事及裁縫	7 (2)	教育
1933	洋裁講座 衣服のデザインニングの学習 (完)	岡本すみ	家事及裁縫	7 (3)	教育
1934	本社主催第二回裁縫教育研究発表大会 洋装デザインの創作	岩崎正子	家事及裁縫	8 (1)	その他

1934	流行考究 日本の洋装考案	雑賀保三郎	家事及裁縫	8 (5)	形態
1935	ドレイピング (一)	岡本すみ	家事及裁縫	9 (1)	素材・形態
1935	ドレイピング (二)	岡本すみ	家事及裁縫	9 (2)	素材・形態
1935	ドレイピング (三)	岡本すみ	家事及裁縫	9 (3)	素材・形態
1935	デザインの指導についての一提案	中江順市郎	家事及裁縫	9 (12)	教育
1936	ドレスの研究 (その一)	江川琴子	家事及裁縫	10 (8)	形態
1936	ドレスの研究 (その二)	萩原春江	家事及裁縫	10 (8)	形態
1936	ドレスの研究 (その三)	清水よし	家事及裁縫	10 (8)	形態
1936	服飾及び流行の検討	斎藤佳三	家事及裁縫	10 (11)	色彩・形態
1936	新時代の婦人子供服のデザインとその裁断	町田菊之助	家事及裁縫	10 (11)	形態・技術
1937	婦人子供服のデザインに就いてー田中千代女子の講演を聴くー	M・Y 生	家事及裁縫	11 (6)	理論
1939	裁縫科、デザインの指導法	牛込ち糸	家事及裁縫	13 (8)	教育
1939	裁縫科、デザインの指導法	牛込ち糸	家事及裁縫	13 (11)	教育
1939	裁縫科、デザインの指導法	牛込ち糸	家事及裁縫	13 (12)	教育
1943	デザインから見た婦人標準服	牛込ち糸	家事裁縫	17 (9)	形態
1947	被服のデザイン	牛込ち糸	家政教育	21 (10)	理論
1948	被服のデザイン	牛込ち糸	家庭科教育	22 (3)	理論
1948	被服のデザイン	牛込ち糸	家庭科教育	22 (10)	理論
1948	被服のデザイン	牛込ち糸	家庭科教育	22 (11)	理論
1950	被服美学概説	宮下孝雄	被服文化	(5) 19	理論
1950	被服美学概説 (2)	宮下孝雄	被服文化	(6) 19	理論
1950	被服美学概説 (3)	宮下孝雄	被服文化	(7) 19	理論
1950	被服美学概説	宮下孝雄	被服文化	(8) 19	理論
1950	被服美学概説	宮下孝雄	被服文化	(9) 19	理論
1950	新刊「意匠学」を読む	宮原小治郎	家庭科教育	24 (3)	その他
1951	被服美学概説 (完)	宮下孝雄	被服文化	(10) 19	理論
1951	デザイン基礎概論 (一)	中田満雄	被服文化	(12) 28	理論
1951	誤解しやすいデザイン	宇田川精一	被服文化	(12) 28	理論
1951	デザイン基礎概論 (二)	中田満雄	被服文化	(13) 28	理論
1951	デザイン基礎概論ーデザインの根拠ー	中田満雄	被服文化	(14) 36	理論
1952	デザイン基礎概論	中田満雄	被服文化	(15) 36	理論
1952	デザイン基礎概論	中田満雄	被服文化	(16) 36	理論
1952	デザイン基礎概論 (完)	中田満雄	被服文化	(17) 33	理論
1952	デザイン講座 (ベーシック・デザイン)	大智浩	被服文化	(19) 31	理論
1952	ベーシックデザイン (2) デザイン講座	大智浩	被服文化	(20) 28	理論
1952	美学について (Ⅱ)	山本正男	被服文化	(20) 28	造形美
1952	家庭科指導案 四月 石川縣 高校 A デザインの要素としての色	坂田房、蕪城富美子	家庭科教育	26 (4)	色彩
1953	ベーシックデザイン (3) デザイン講座	大智浩	被服文化	(21) 28	理論
1953	美学講座ー美の現象について (Ⅲ)	山本正男	被服文化	(21) 28	造形美
1953	美学講座Ⅳ	山本正男	被服文化	(22) 28	造形美
1953	美の形態ー美学講座Ⅴ (2)	山本正男	被服文化	(23) 28	造形美
1953	服装の基本形態	菅原教造	被服文化	(23) 28	形態
1953	意匠・色彩教育計画	大貫与志子	被服文化	(24) 28	色彩・形態
1953	配色教育についての一私見ー1ー	宮下孝雄	家庭科教育	27 (4)	色彩・教育
1953	家庭科指導の実際 京都府 高 A 平常着にふさわしいデザイン		家庭科教育	27 (5)	形態
1954	色彩の活用について	細野尚志	被服文化	(28) 28	色彩
1954	型紙教育について	牛込ち糸	被服文化	(29) 28	技術
1954	マジック配色とデザイン	宮下孝雄	被服文化	(30) 28	色彩・形態
1954	デザインの研究	東京家政大学被服研究班	家庭科教育	28 (1)	その他
1954	誌上講習 デザイン教育の一方法 (1)	末田利一	家庭科教育	28 (5)	教育
1954	誌上講習 デザイン教育の一方法 (2)	末田利一	家庭科教育	28 (6)	教育
1955	家庭科におけるデザイン学習のありかた (1)	松浦澄子	家庭科教育	29 (6)	教育
1955	家庭科におけるデザイン学習のあり方 (2)	松浦澄子	家庭科教育	29 (7)	教育

1956	デザイン デザインということ	池辺陽	被服文化	(38) 45	その他
1956	私のデザイン教育	重富初枝	被服文化	(38) 45	教育
1956	私のデザイン教育	松波美恵子	被服文化	(39) 45	教育
1956	デザイン デザインの基礎	塚田敢	被服文化	(39) 45	理論
1956	デザイン盗用の問題	湯原五郎	被服文化	(39) 45	理論
1956	デザインの（色の構成）	塚田敢	被服文化	(40) 45	色彩
1956	デザインの基礎（形の構成）	山口正城	被服文化	(40) 45	理論
1956	服装デザイン教育の再検討	石山彰	被服文化	(41) 45	教育
1956	私のデザイン教育	織田稔子	被服文化	(41) 45	教育
1956	色の構成（デザインの基礎3）	塚田敢	被服文化	(41) 45	理論
1956	形の構成（デザインの基礎3）	山口正城	被服文化	(41) 45	理論
1956	働く婦人のデザインコンテスト		被服文化	(42) 45	その他
1956	服装デザイン教育における技術の問題	宇田川精一	被服文化	(42) 45	教育
1956	デザイン入門－1－	宮下孝雄	家庭科教育	30 (1)	理論
1956	デザイン入門－2－	宮下孝雄	家庭科教育	30 (2)	理論
1956	デザイン入門－3－	宮下孝雄	家庭科教育	30 (3)	理論
1956	誌上講習 デザイン入門（4）	宮下孝雄	家庭科教育	30 (4)	理論
1956	誌上講習 デザイン入門（5）	宮下孝雄	家庭科教育	30 (5)	理論
1957	デザイン教育をめぐって	橋本徹郎	被服文化	(43) 45	教育
1957	色彩 配色と調和（1）	塚田敢	被服文化	(43) 45	色彩
1957	デザイン教育以前	吉田謙吉	被服文化	(44) 45	教育
1957	配色と調和（2）	塚田敢	被服文化	(44) 45	色彩
1957	デザインとは	剣持勇	被服文化	(44) 45	理論
1957	色彩 配色と調和（3）	塚田敢	被服文化	(45) 45	色彩
1957	デザイン用語の解説	剣持勇	被服文化	(45) 45	その他
1957	ドイツのデザイン教育	中田満雄	被服文化	(46) 45	教育
1957	既製服デザイナーの教育について	田中千代	被服文化	(46) 45	教育
1957	色彩 配色と調和（4）	塚田敢	被服文化	(46) 45	色彩
1957	流行 イスラエルのデザイナーたち	中田満雄	被服文化	(46) 45	その他
1957	デザイン用語（2）	剣持勇	被服文化	(46) 45	その他
1957	用語解説 デザイン用語（3）	剣持勇	被服文化	(47) 45	その他
1957	色彩 配色と調和（6）	塚田敢	被服文化	(48) 45	色彩
1957	外国意匠の模倣の問題と各国意匠権一斑	玉川喜代次	被服文化	(48) 45	その他
1957	デザイン用語（4）	剣持勇	被服文化	(48) 45	その他
1958	色彩教育について（1）	市川津義男	被服文化	(49) 45	色彩
1958	色彩 配色と調和（7）	塚田敢	被服文化	(49) 45	色彩
1958	色彩 配色実習のいろいろ	市川津義男	被服文化	(50) 45	色彩
1958	デザイナーのみた白い布	桑沢洋子	被服文化	(52) 45	素材
1958	ドレスデザインは行詰まったか	長谷川路可	被服文化	(53) 48	形態
1958	服装史と服装デザイン	石山彰	被服文化	(53) 48	歴史
1959	海外デザイン界の日本調について	斎藤重孝	被服文化	(56) 41	その他
1959	デザイン権の問題をめぐって	中田満雄	被服文化	(56) 41	その他
1959	衣裳美論考（一）	山本武夫	家庭科教育	33 (1)	造形美
1959	衣裳美論考（二）	山本武夫	家庭科教育	33 (2)	造形美
1959	衣裳美論考（三）	山本武夫	家庭科教育	33 (3)	造形美
1959	衣裳美論考（四）	山本武夫	家庭科教育	33 (4)	造形美
1959	衣裳美論考（五）	山本武夫	家庭科教育	33 (5)	造形美
1959	衣裳美論考	山本武夫	家庭科教育	33 (8)	造形美
1959	誌上講習 技術の基礎から（8）ドレス・デザイン（1）	桑沢洋子	家庭科教育	33 (9)	技術
1959	誌上講習 技術の基礎から（9）個性と体型によるデザイン	桑沢洋子	家庭科教育	33 (10)	技術
1959	衣裳美論考	山本武夫	家庭科教育	33 (10)	造形美
1959	本社主催夏期講習会 講演記録 服飾デザインの理論	桑沢洋子	家庭科教育	33 (12)	理論
1959	服飾デザインの理論	桑沢洋子	家庭科教育	33 (12)	理論
1959	婦人服における縞柄デザインの一考察		衣生活	19 (11)	素材

1960	マックス・ティルケ著「衣服の型式と意匠」(文献解題4)	太田臨一郎	被服文化	(62) 45	その他
1960	巻頭言 デザイナーと教養	今和次郎	被服文化	(63) 45	その他
1960	服飾の美意識を求めて——服飾美学の立場	谷田閻次	被服文化	(63) 45	造形美
1960	服装教育の先覚者	原田茂	被服文化	(66) 49	教育
1961	巻頭言 社交的情緒とデザイン	今和次郎	被服文化	(67) 45	その他
1961	被服学体系論 (2)	石山彰	被服文化	(69) 45	理論
1961	染料と色彩	小川安朗	被服文化	(69) 45	色彩
1961	(座談会) 生活と色彩		被服文化	(69) 45	色彩
1961	服飾意匠の特質について	石山彰	被服文化	(70) 45	理論
1961	意匠学の立場からみた西洋服装史	渋谷悠子	衣生活	47 (11)	歴史
1962	大学被服科における 意匠教育の体系化について	石山彰	被服文化	(75) 45	教育
1962	パリ・モードのデザイン傾向——戦後から現在まで	伊藤茂平	被服文化	(77) 45	その他
1962	巻頭言 造形美学と服装	今和次郎	被服文化	(78) 45	造形美
1962	被服のデザイン	谷田閻次	家庭科教育	36 (12)	造形美
1962	涼しい夏服の着方とデザイン	深山静江	衣生活	57 (8)	形態
1962	近世服飾文化・染織デザイナーの歴史1	藤沢衛彦	衣生活	61	その他
1963	ボタンの本質とデザイン	南田広直	被服文化	(80) 45	その他
1963	色彩の知識		衣生活	63 (1)	色彩
1963	近世服飾文化・染織デザイナーの歴史2	藤沢衛彦	衣生活	63	その他
1963	近世服飾文化・染織デザイナーの歴史3	藤沢衛彦	衣生活	64	その他
1963	色の持つ季節感	松田はる江	衣生活	64 (2)	色彩
1963	近世服飾文化・染織デザイナーの歴史4	藤沢衛彦	衣生活	65	その他
1963	近世服飾文化・染織デザイナーの歴史5	藤沢衛彦	衣生活	67	その他
1963	近世服飾文化・染織デザイナーの歴史6	藤沢衛彦	衣生活	68	その他
1963	近世服飾文化・染織デザイナーの歴史7	藤沢衛彦	衣生活	69	その他
1963	近世服飾文化・染織デザイナーの歴史8	藤沢衛彦	衣生活	70	その他
1963	63サマーウエアの機能とデザイン	河合玲	衣生活	70	形態・その他
1963	近世服飾文化・染織デザイナーの歴史9	藤沢衛彦	衣生活	73	その他
1963	ファッション・デザイン教育の印象	田中正明	衣生活	73	教育
1963	近世服飾文化・染織デザイナーの歴史10	藤沢衛彦	衣生活	76	その他
1964	近世服飾文化・染織デザイナーの歴史11	藤沢衛彦	衣生活	77	その他
1964	近世服飾文化・染織デザイナーの歴史12	藤沢衛彦	衣生活	81	その他
1964	美しい服装とは		衣生活	81	造形美
1964	近世服飾文化・染織デザイナーの歴史13	藤沢衛彦	衣生活	82	その他
1964	夏の衣服の色	木曾山かね	衣生活	82	色彩
1965	衣服の模様についての史的考察	編集部	家庭科教育	39 (7)	歴史
1965	服装史から見た現代の配色	菅生ふさ代	家庭科教育	39 (11)	色彩・歴史
1965	既製服業界のデザイナー	中村三甫	被服文化	(91) 43	その他
1965	アメリカのファッション・デザイン教育	田中正明	被服文化	(92) 43	教育
1965	巻頭言 宇宙服とデザイン界	今和次郎	被服文化	(93) 43	その他
1965	スカートの材質と色	深山静枝	衣生活	90	素材・色彩
1965	被服デザインの立場	南日朋子	衣生活	94 (8)	その他
1965	被服の歴史 (4) 被服意匠の諸相	村上憲司	衣生活	97 (10)	歴史
1965	被服の歴史 (5) 被服意匠の諸相	村上憲司	衣生活	98 (11)	歴史
1965	被服の歴史 (6) 被服意匠の諸相	村上憲司	衣生活	(12)	歴史
1965	被服デザインにおける縞柄の錯視現象について	山崎勝弘	衣生活	99 (12)	理論
1966	デザインおよびデザイン教育の本質についての家政学的一考察	中田満雄	被服文化	100 (63)	教育
1966	デザイナー教育への新しい提案	中尾喜保	被服文化	(102) 51	教育
1966	人体のプロポーションと服装美	中保淑子	家庭科教育	40 (7)	造形美
1966	被服の歴史 (7) 被服意匠の諸相	村上憲司	衣生活	100 (1)	歴史
1967	ファッション・カラーのシステムチック・アプローチング (1)	大作陶夫	被服文化	(105) 49	色彩
1967	ファッション・カラーのシステムチック・アプローチング (2)	大作陶夫	被服文化	(106) 51	色彩
1967	ファッション・カラーのシステムチック・アプローチング (3)	大作陶夫	被服文化	(107) 51	色彩
1967	現代の服装デザインにおけるクールとホット	日向あき子	被服文化	(108) 47	その他

1967	デザイナーのこの1年	林邦雄	被服文化	(108) 47	その他
1967	ジュニア・ショップのさまざまな意匠	落合充信	被服文化	(108) 47	形態
1967	服飾における分割線の美的考察	新野静枝	衣生活	(11)	形態・理論
1967	衣服の人間工学的デザインニング (園児服を中心として)		衣生活	(12)	形態
1968	ココ・シャネル	笹原紀代	被服文化	(111) 47	その他
1968	産地デザインの問題	滝沢栄輔	被服文化	(113) 49	その他
1968	色彩と配色	佐藤亘宏	家庭科教育	42 (12)	色彩
1968	色彩文化の転嫁	山崎勝弘	衣生活	(7)	色彩
1968	プリーツの美的考察	メイ S 青木	衣生活	(12)	形態
1969	色彩調節についての若干の覚え書	中野刀子	被服文化	(116) 51	色彩
1969	基礎デザイン	下地一丸	家庭科教育	43 (12)	理論
1969	トリミングの美的考察	鈴木宏子	衣生活	(1)	理論
1970	大学などにおける被服教育	千村典夫	被服文化	(121) 43	教育
1970	服飾デザイン教育への提言	渋谷裕子	被服文化	(121) 43	教育
1970	被服美学の立場	村上憲司	被服文化	(121) 43	造形美
1970	日本デザイン創造の可能性	今井俊満	被服文化	(121) 43	その他
1970	服装の色とかたち	田口渕三郎	被服文化	(124) 49	色彩・形態
1970	家政科系大学のデザイン教育について	宇賀神勝	衣生活	13 (6) (153)	教育
1970	絹のデザインと仕立て	原のぶ子他	衣生活	(1)	形態・素材
1970	衣服の色と化粧の色	大作陶夫	衣生活	13 (1) (148)	色彩
1972	服飾意匠学	鍛島康子	衣生活	15 (4) (171)	理論
1972	婦人既製服のデザイナー	スズ鈴木	衣生活	15 (5) (172)	その他
1972	デザイン教育のあり方	宇賀神勝	衣生活	15 (6) (173)	教育
1972	色彩を中心としたデザインの基礎	宇賀神勝	衣生活	15 (8) (175)	色彩
1973	「服飾造型」をめぐる	長塩滋子	衣生活	16 (1) (178)	形態
1973	被服デザイン	渋谷裕子	衣生活	16 (3) (180)	その他
1973	衣と美について	西田正秋	衣生活	16 (4) (181)	造形美
1973	色の見え方	湊幸衛	衣生活	16 (4) (181)	色彩
1973	人間工学による被服のデザイン	藤井千枝	衣生活	16 (5) (182)	形態
1973	モジュロールの服飾デザインへの応用	高尾澄江	衣生活	16 (5) (182)	その他
1973	アパレル・デザイン	渋谷裕子	衣生活	16 (5) (182)	その他
1973	モジュロールの服飾デザインへの応用 (2)	高尾澄江	衣生活	16 (6) (183)	その他
1973	衣と美について (二)	西田正秋	衣生活	16 (9) (186)	造形美
1973	衣と美について (3)	西田正秋	衣生活	16 (9) (186)	造形美
1973	服装デザインと服装史の接点	中田満雄	服装文化	(138)	歴史
1974	服飾デザインの原点	千村典夫	衣生活	17 (3) (190)	その他
1974	ディオールにおける造形志向	富樫朝子	衣生活	17 (5) (192)	形態
1974	色彩学の基礎から配色学 (1)	福井千枝	衣生活	17 (6) (193)	色彩・理論
1974	美しい婦人服造形のために	近藤れん子	衣生活	17 (6) (193)	造形美
1974	ファッションビジネスに参加する職能デザイナー教育	河合玲	衣生活	17 (7) (194)	教育
1974	色彩学の基礎から配色学へ (2)	藤井千枝	衣生活	17 (7) (194)	色彩・理論
1974	美しい婦人服造形のために (2)	近藤れん子	衣生活	17 (8) (195)	形態
1974	服装と創造	金子一子	服装文化	141	その他
1974	デザイン原則とその応用	金子一子	服装文化	143	理論
1974	デザイン原則とその応用 (2)	金子一子	服装文化	144	理論
1974	デザインのあり方 (1)	宇賀神勝	家庭科教育	48 (4)	理論
1974	デザインのあり方 (2)	宇賀神勝	家庭科教育	48 (7)	理論
1974	デザインのあり方 (3)	宇賀神勝	家庭科教育	48 (9)	理論
1974	デザインのあり方 (4)	宇賀神勝	家庭科教育	48 (11)	理論
1974	デザインのあり方 (5)	宇賀神勝	家庭科教育	48 (14)	理論
1975	デザイン・ノート 衣服のための基礎デザイン	車香澄	衣生活	18 (1) (196)	形態・技術
1975	美しい婦人服造形のために (3)	近藤れん子	衣生活	18 (1) (196)	形態・技術
1975	美しい婦人服造形のために (4)	近藤れん子	衣生活	18 (2) (197)	形態・技術
1975	美しい婦人服造形のために (5)	近藤れん子	衣生活	18 (3) (198)	素材・形態

1975	美しい婦人服造形のために (6)	近藤れん子	衣生活	18 (4) (199)	形態・技術
1975	美しい婦人服造形のために (7)	近藤れん子	衣生活	18 (5) (200)	形態・技術
1975	美しい婦人服造形のために (8)	近藤れん子	衣生活	18 (6) (201)	形態・技術
1975	デザイン原則とその応用 (3)	金子一子	服装文化	145	理論
1975	デザイン原則とその応用 (4)	金子一子	服装文化	146	理論
1975	デザイン原則とその応用 (5)	金子一子	服装文化	147	理論
1975	デザインのあり方 (6)	宇賀神勝	家庭科教育	49 (2)	理論
1975	デザインのあり方 (7)	宇賀神勝	家庭科教育	49 (4)	理論
1976	服飾デザインと感情効果	渋谷裕子	衣生活	19 (1) (202)	その他
1976	デザイン・ノート 衣服のための基礎デザイン	車香澄	衣生活	19 (2) (203)	教育・理論
1976	美しい婦人服造形のために (10)	近藤れん子	衣生活	19 (2) (203)	技術
1976	服装教育とデザインの原理	石山彰	衣生活	19 (3) (204)	教育・理論
1976	形式要素からの服装デザインの分析	渋谷裕子	衣生活	19 (3) (204)	形態
1976	美しい婦人服造形のために (11)	近藤れん子	衣生活	19 (3) (204)	形態・技術
1976	美しい婦人服造形のために (12)	近藤れん子	衣生活	19 (4) (205)	形態・技術
1976	美しい婦人服造形のために (13)	近藤れん子	衣生活	19 (5) (206)	形態・技術
1976	美しい婦人服造形のために (14)	近藤れん子	衣生活	19 (6) (207)	形態・技術
1976	デザイン原則とその応用 (6)	金子一子	服装文化	149	理論
1976	デザイン原則とその応用 (7)	金子一子	服装文化	150	理論
1976	風俗の断面 洋裁教授とデザイン教育	野末和志	服装文化	151	教育
1976	研究ノート ファッションのアイディア源	原田二郎	服装文化	151	その他
1976	デザイン原則とその応用 (8)	金子一子	服装文化	151	理論
1976	書評『デザイナーのための西洋服装史』	丹野郁	服装文化	151	その他
1976	デザイン原則とその応用 (23)	金子一子、曾根美知江	服装文化	152	理論
1977	服飾デザインの勉強	渋谷裕子	衣生活	20 (1) (208)	その他
1977	服飾デザインへの一試み	石川満寿江	衣生活	20 (3) (210)	その他
1977	衣服とデザイン デザインの原点を考える	田中千代	衣生活	20 (4) (211)	その他
1977	デザイン原則とその応用——素材の柄と調和 (その三) (10)	金子一子	服装文化	153	理論
1977	書評『桑沢洋子の服飾デザイン』	小川安朗	服装文化	155	その他
1977	意匠にみるくらしの思想	宮崎清	家庭科教育	51 (8)	理論
1978	デザイナー 人と作品 (1)	山田夏子	衣生活	21 (1) (214)	その他
1978	デザイン・ノート (III)	車香澄	衣生活	21 (1) (214)	教育・理論
1978	デザイナー 人と作品 (2)	山田夏子	衣生活	21 (2) (215)	その他
1978	デザイナー 人と作品 (3)	山田夏子	衣生活	21 (3) (216)	その他
1978	服飾デザインへの一試み (II)	石川満寿江	衣生活	21 (3) (216)	その他
1978	デザイナー 人と作品 (4)	山田夏子	衣生活	21 (4) (217)	その他
1978	デザイナー 人と作品 (5)	山田夏子	衣生活	21 (5) (218)	その他
1978	デザイナー 人と作品 (6)	山田夏子	衣生活	21 (6) (219)	その他
1978	服飾デザイン教育——その社会との対応	渡辺くにえ	衣生活	21 (6) (219)	教育
1979	デザイナー 人と作品 (7)	山田夏子	衣生活	22 (1) (220)	その他
1979	衣服デザインにおけるサーヴェイのすすめ	片山陽次郎	衣生活	22 (1) (220)	その他
1979	被服における色彩心理の試み (3)	今井弥生	衣生活	22 (1) (220)	色彩
1979	サリーの意匠について	赤池照子	衣生活	22 (1) (220)	形態
1979	デザイナー 人と作品 (8)	山田夏子	衣生活	22 (2) (221)	その他
1979	デザイナー 人と作品 (9)	山田夏子	衣生活	22 (3) (222)	その他
1979	色彩文化の成熟 -- 個性と社会性にも	小林重順	衣生活	22 (3) (222)	色彩
1979	デザイナー 人と作品 (10)	山田夏子	衣生活	22 (4) (239)	その他
1979	デザイナー 人と作品 (11)	山田夏子	衣生活	22 (5) (224)	その他
1979	デザイナー 人と作品 (12)	山田夏子	衣生活	22 (6) (225)	その他
1980	デザイナー 人と作品 (14)	山田夏子	衣生活	23 (2) (227)	その他
1980	デザイナー 人と作品 (15)	山田夏子	衣生活	23 (3) (228)	その他
1980	対談 プリント・デザイナーとコスチューム・デザイナーとの対話		衣生活	23 (3) (228)	その他
1980	デザイナー 人と作品 (16)	山田夏子	衣生活	23 (4) (229)	その他

1980	デザイナー 人と作品総集編（前）	山田夏子	衣生活	23 (5) (230)	その他
1980	デザイナー 人と作品総集編（後）	山田夏子	衣生活	23 (6) (231)	その他
1981	被服意匠学とは	山田夏子	衣生活	24 (1) (232)	理論
1981	ドレーピングとデザイン	浅田正代	衣生活	24 (2) (233)	形態・技術
1981	特集①現代ファッションとデザイナー	小池千枝、小池一子、三島彰、千村典生	服装文化	170	その他
1981	特集①今世紀のデザイナーの仕事を歴史的条件、文化的風土との関連で意義と限界を捉える。現代ファッションとデザイナー（後編）	小池千枝、小池一子、三島彰、千村典生	服装文化	171	その他
1982	被服デザイン学を考える	千村典夫	衣生活	25 (1) (238)	理論
1982	第一回ファッションデザイン グランプリについて		衣生活	25 (4) (241)	その他
1982	子供服の洋装化の受容過程について——デザインと普及の様相	藤村代利子	衣生活	25 (6) (243)	その他
1983	新入生諸君とともにデザインについて思う	吉川正巳	衣生活	26 (1) (244)	その他
1983	ニュープロポーション論——ファッション・デザインのコンセプトとして (1)	成田幸比路	衣生活	26 (4) (247)	その他
1983	〈服飾意匠学2〉〈形態理論Ⅱ〉線について (Ⅰ)	吉岡徹	衣生活	26 (4) (247)	理論
1983	アパレルのための造形手法 (5)	唐木勇	衣生活	26 (5) (248)	技術
1983	〈服飾意匠学3〉〈形態理論Ⅱ〉線について (Ⅱ)	吉岡徹	衣生活	26 (5) (248)	理論
1983	ニュープロポーション論——デッサン・デザイン・タロージグ (2)	成田幸比路	衣生活	26 (5) (248)	その他
1983	アパレルのための造形手法 (6)	唐木勇	衣生活	26 (6) (249)	技術
1983	〈服飾意匠学4〉〈形態理論Ⅲ〉面について	吉岡徹	衣生活	26 (6) (249)	理論
1983	服飾意匠学 1 形態理論 (1) 点	吉岡徹	家庭科教育	57 (1)	理論
1983	服飾意匠学 2 形態理論 (2) 線Ⅰ	吉岡徹	家庭科教育	57 (2)	理論
1983	服飾意匠学 3 形態理論 (2) 線Ⅱ	吉岡徹	家庭科教育	57 (3)	理論
1983	服飾意匠学 4 形態理論 (3) 面	吉岡徹	家庭科教育	57 (5)	理論
1983	服飾意匠学 5 形態理論Ⅳ 立体	吉岡徹	家庭科教育	57 (6)	理論
1983	服飾意匠学 (6) 形式原理Ⅰ 反復・交替、調和、対立	吉岡徹	家庭科教育	57 (7)	理論
1983	服飾意匠学 7 形式原理 (2) リズム、グラデーション、バランス、対称	吉岡徹	家庭科教育	57 (8)	理論
1983	服飾意匠学 8 形式原理Ⅲ プロポーション (1)	吉岡徹	家庭科教育	57 (10)	理論
1983	服飾意匠学 (9) 形式原理Ⅳ プロポーション (2)	吉岡徹	家庭科教育	57 (11)	理論
1983	服飾意匠学 10 用と美 (1)	吉岡徹	家庭科教育	57 (12)	理論
1983	服飾意匠学 11 用と美 (2)	吉岡徹	家庭科教育	57 (13)	理論
1983	使う立場からの提言 -- デザイン教育のもう一つの視点	福山和子	家庭科教育	57 (15)	教育
1983	美的センスを養うために	森信子	家庭科教育	57 (15)	その他
1983	服飾意匠学 12 用と美 (3)	吉岡徹	家庭科教育	57 (15)	理論
1984	〈服飾意匠学5〉〈形態理論Ⅳ〉立体について	吉岡徹	衣生活	27 (1) (250)	理論
1984	クリエイティブ・ファッションの旗手たち	千村典夫	衣生活	27 (5) (254)	その他
1984	服飾意匠学 13 用と美Ⅳ	吉岡徹	家庭科教育	58 (1)	理論
1984	服飾意匠学 14 用と美Ⅴ	吉岡徹	家庭科教育	58 (2)	理論
1984	服飾意匠学 15 用と美 (6)	吉岡徹	家庭科教育	58 (3)	理論
1984	教材研究 中三 パジャマの製作 (1) 自分が作るパジャマのデザイン	土屋滯子	家庭科教育	58 (8)	形態
1984	衣服の形態と構造	平沢和子	家庭科教育	58 (13)	形態
1985	形式原理Ⅰ〈服飾意匠学6〉	吉岡徹	衣生活	28 (4) (259)	理論
1985	テキスタイル デザイン プログラム	大野亮	衣生活	28 (4) (259)	素材
1985	ドレスの色彩嗜好と形態・素材との関係 ('82~'84年春、夏物)	木曾山かね他	衣生活	28 (4) (259)	色彩・形態・素材
1985	形式原理Ⅱ〈服飾意匠学7〉	吉岡徹	衣生活	28 (5) (260)	理論
1985	形式原理Ⅲ〈服飾意匠学8〉	吉岡徹	衣生活	28 (6) (261)	理論
1985	豊かな造形感覚を育てる服飾デザインの基礎指導 -- 服飾デザイン科における指導の実態	酒井玲子	家庭科教育	59 (13)	教育
1986	服飾意匠学 9 形式原理Ⅳ	吉岡徹	衣生活	29 (2) (263)	理論
1986	連載 服飾意匠学 10 形式原理Ⅴ	吉岡徹	衣生活	29 (3) (264)	理論
1986	連載 高齢化社会の衣生活——中・高齢女性の既製服サイズとデザイン (その3)	山本昭子	衣生活	29 (6) (267)	形態
1986	教材研究 中一 被服1の指導 (3) スモックのデザインと型紙	當間タケ子	家庭科教育	60 (7)	技術
1986	服装デザインにおけるテクスチュア	飯塚ひろ子	家庭科教育	60 (11)	素材

1987	特集：生活とデザイン なぜ、黒なのか？	近江源太郎	衣生活	30 (1) (268)	色彩
1987	被服デザインの考え方	伊藤敬之	衣生活	30 (1) (268)	理論
1987	ドレスの色彩嗜好と形態・素材との関係（'85～'86年）	長塚こずえ、雲田直子	衣生活	30 (5) (272)	色彩・形態・素材
1987	服飾における美 -- 装飾 I	吉岡徹	家庭科教育	61 (13)	理論
1987	服飾における美 装飾 II	吉岡徹	家庭科教育	61 (15)	理論
1988	デザイン活動におけるイメージとデザインの発想	万江八重子	家庭科教育	62 (13)	その他
1990	被服と色彩	青木迪佳	家庭科教育	64 (11)	色彩
1991	服飾・インテリアの教育のあり方	志水咲子	家庭科教育	64 (15)	教育
1991	大学・短期大学におけるコンピュータ支援による被服デザイン教育に関する調査	庄山茂子、今岡春樹、中川早苗	衣生活	34 (2) (293)	教育
1991	衣服における青色の研究——A Study in blue of costume	原田弘美	衣生活	34 (5) (296)	色彩
1991	ファッションデザインと記号——被服学研究の一つの視点	福山和子	家庭科教育	65 (5)	その他

